

胸部・腹部大動脈 ステントグラフト治療について

大動脈は、心臓の左心室から送り出された血液が通る太い血管です。腹部や胸部などの大動脈がコブのように拡張した状態を大動脈瘤といいます。破裂時以外は症状がないことが多く、大きくなるにつれ周囲の組織を圧迫します。胸部大動脈瘤なら咳、血痰、胸痛、背中への痛みが、腹部大動脈瘤なら腰痛や腹痛などがみられます。破裂すると激しい痛みが生じ、出血によるショック症状での致死率が高いため、健診や検査での動脈瘤の発見が特に重要になる病気です。

その大動脈瘤の治療で広く普及しているステントグラフトとは、人工血管に「ステント」という金網に似た金属を縫い合わせたものです。

今回、大動脈ステントグラフト治療について、「胸部」を心臓血管外科 助教 岩橋 徹 医師が、「腹部」を講師 神谷健太郎 医師が解説いたします。

■日 時：平成30年11月29日（木）

開場 16:30

開演 17:00～（第1部：胸部）

17:45頃～（第2部：腹部）

閉演 18:30（予定）

■会 場：東京医科大学病院

本館6階 臨床講堂

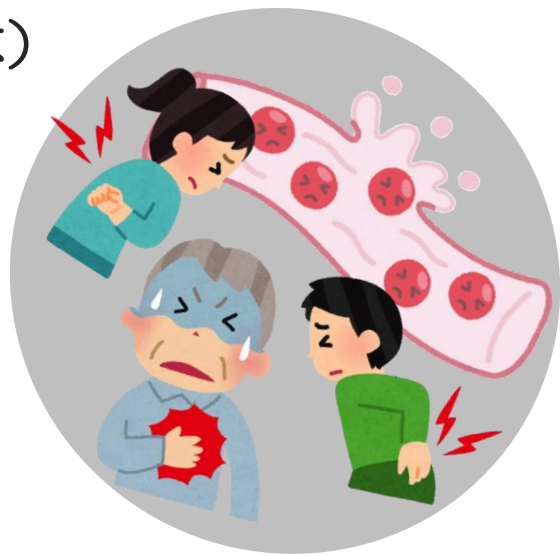
（最寄駅：丸ノ内線 西新宿駅）

■入 場 料：無 料

■申し込み：事前の申し込みは不要。当日は会場に直接お越しください。

■お問合せ：東京医科大学病院 総務課 ☎ 03-3342-6111(代)

※尚、座席数に限りがございます（320席）。満席の場合は入場をお断りする場合がございますので予めご了承ください。



共催：東京医科大学

東京医科大学病院 生涯教育センター

東京医科大学病院 総合相談・支援センター

公益財団法人 東京医科大学がん研究事業団

東京医専